

3/16-22#39金の燭台の間を歩く人の子としての
キリスト:I.金の燭台の間を歩く人の子としてのキ
リストのビジョンを見るために、私たちは主の勝利
を得た使者、すなわち、霊の中にいて、召会の
立場に立つ者たちとなって、イエスにある患難と
王国と忍耐とに共にあずかっている者とならな
ければなりません:A初期の召会生活の実行は、一
つの都市に一つの召会、すなわち、一つの都市
にただ一つの召会があるという実行でした。いか
なる都市にも二つ以上の召会はありませんで
した。B一の真の立場、すなわち、神の選ばれた
場所にある私たちの集会には、四つの特徴があ
ります:1第一に、神の民は常に一であるべきで
す。彼らの間に分裂があってはなりません。エペ
ソ4:3 平和の結合するきずなの中で、その霊の
一を保つことを熱心に努めなさい。2第二に、神
の民がその中へと集まるべき唯一の名は、主イ
エス・キリストの御名であり、その実際はその霊で
す。他のどの名を用いることも宗派になり、分裂
します。これは霊的な淫行です。マタイ18:20 二
人または三人が私の名の中へと集められている
所には、私がその間にいるからである。3第三に、
新約で神の住居、彼の住まいは、特に私たちの
霊の中に設けられています。それは、私たちのミ
ングリングされた霊、再生され、神聖な霊によっ
て内住されている私たちの人の霊です。私たち
は神を礼拝する集会において、私たちの霊を訓
練し、あらゆることを霊の中で行なわなければ
なりません。4第四に、私たちは神を礼拝するとき、
祭壇で表徴されるキリストの十字架を真に適用
し、肉、自己、天然の命を拒絶し、ただキリストを
もって神を礼拝しなければなりません。C私たち
はイエスにある患難に共にあずかっている者で
す:啓1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、
イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっ
ている者であるが、神の言とイエスの証しのゆえ
に、パトモスと呼ばれる島にいた。1「イエスにある」
が意味することは、私たちが内住するイエスの霊、
すなわち苦難に対して十分な強さを持つ人の霊
によって、ナザレ人イエスに従うとき、私たちは
苦難を受け、迫害されるということです。2今日
私たちが苦難を受けているとき、主イエスは私た
ちの中で、また私たちと共に苦難を受けています。
3私たちは多くの患難を経過して王国へと入ります。
使徒14:22 ...私たちが神の王国に入るため
には、多くの患難を経なければならぬ。4私たち
はキリストの復活の力によって、彼の苦難にあ
ずかり、十字架につけられた生活をし、彼の死に

同形化されることが出来ます。5私たちは死に至るまでも自分の魂の命を愛さず、兄弟たちのために自分の命を捨てるべきです。D私たちは、イエスにある王国に共にあずかっている者です:1王国は召会生活であり、忠信な信者たちはその中で生活し、命において成長し、命において造り変えられます。2私たちは王国の生活を実行するために、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求める必要があります。3私たちは王国の生活を実行するために、罪を犯している兄弟たちを顧みて、彼らを挽回する必要があります。E私たちは、イエスにある忍耐に共にあずかっている者です:1私たちは、サタンの疲れさせる策略に抵抗しなければなりません。2私たちはキリストの中に住むとき、彼の忍耐についての言を守り、忍耐を持って苦難と反対されることに耐えます。3私たちは、自分が享受して経験したキリストの忍耐をもって、忍耐することができます。II.人の子としてのキリストは大祭司であり、「足まで垂れた衣を着て、胸に金の帯を締めておられ」、彼の人性において諸召会をはぐくみ、彼の神性において諸召会を養います:啓1:13 その燭台の間に、人の子のような方が、足まで垂れた衣を着て、胸に金の帯を締めておられた。A人の子は人性の中にあり、金の帯は彼の神性を表徴し、胸は愛のしるしです:1キリストは腰に帯を締め、神聖な働きのために強められて、諸召会を生み出しました。しかし、今や彼は胸に帯を締めて、彼の愛によって生み出した諸召会を顧みています。2金の帯はキリストの神聖な活力としての彼の神性を表徴し、胸はこの金の活力が彼の愛によって、また彼の愛をもって活用され、動機づけられて、諸召会を養うことを表徴します。Bキリストは人の子として彼の人性において諸召会を顧みて、諸召会をはぐくみます:1彼は燭台のともし火を整えて、ともし火を正常にし、私たちをはぐくみます。それは、私たちが幸いになり、喜び、心地よくなるためです:a主の臨在は、柔らかくて温かい雰囲気をもたらして、私たちの存在をはぐくみ、私たちに安息、慰め、いやし、清め、励ましを与えます。b私たちは召会の中で主の臨在のはぐくむ雰囲気を楽しむ、命の養う供給を受けることができます。エペソ5:29 自分の肉体を憎んだ者はかつてなく、むしろ、キリストが召会に対してなされるように、それを養いはぐくむのです。2彼は燭台のともし火の芯を切り取り、私たちが輝くのを妨げるすべての消極的なものを切り取ります:a芯の焦げた

部分、黒くなった部分は、神の定められた御旨にしたがっていない、切り取られる必要のあるものを表徴します。例えば、それは私たちの肉、天然の人、自己、旧創造などです。**b**彼は諸召会の中のすべての違い(過ち、短所、失敗、欠点)を切り取り、諸召会が本質、現れ、表現において同じになるようにします。**c**キリストは彼の神性において、彼の胸の金の帯で表徴される彼の神聖な愛をもって諸召会を顧みて、諸召会を養います:**1**キリストは彼の三つの時期の満ち満ちた務めの中で、すべてを含むキリストとしてのご自身をもって私たちを養います。それは、私たちが神聖な命において成長し、円熟して、彼の勝利者となり、彼の永遠のエコノミーを完成するためです。**2**歩くキリストとして、彼は各召会の状態を知るようになります。そして語る霊として、彼は燭台を整え、新鮮な油をもって、すなわちその霊の供給をもって燭台を満たします。**啓2:1** ...右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台のただ中を歩いている者が、こう言われる。**7** 耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう。**3**私たちは彼の行動にあずかり、彼の顧みを楽しむために、召会の中にいなければなりません。**III. 主は天的に太古からおられます。それは、彼の頭と髪が白い羊毛のように雪のように白いことによって描写されています。啓1:14** 彼の頭と髪は、白い羊毛のように雪のように白く、彼の目は、火の炎のようであり、**15** 彼の足は、炉で精錬された輝く青銅のようであり、彼の声は、大水の響きのようであった。**IV. 主の七つの目は、火の炎のようです。それは、見つめるため、観察するため、探るため、照らすことによって裁くため、注入するためです:A**キリストの目は地上における神の行動と活動のためです。なぜなら、七は神の行動における完全の数字であるからです。**B**主の目が火の炎のようであるのは、おもに彼の裁きのためです。**V. 主の足は、炉で精錬された輝く青銅のようです。これは、彼の完全で輝く歩みが、彼に神聖な裁きを執行する資格を与えることを表徴します。VI. 主の声は、大水の響きのようです。それは、ごう音、全能の神の声の響きであり、厳粛で荘重です。VII. キリストは諸召会の輝く使者たちを握っている方です:啓1:16a** 彼は右の手に七つの星を持ち、**A**使者たちは諸召会の中の霊的な人たちであり、イエスの証しの責任を担う人たちです。**B**使者たちは星のように、天的な性質を持

ち、天的な地位にいて、主からの新鮮なメッセージを持っており、彼の民に与えます。**c**導いている人たちは彼の右の手にあるので、しりごみする必要は全くありません。キリストは確かに彼の証しのために責任を取ります。**VIII. キリストの口から鋭いもろ刃の剣が出ています。それは彼の識別し、裁き、殺す言葉であり、消極的な人や物事を対処するためです。ヘブル4:12** なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。**啓1:16b** 彼の口からは、鋭いもろ刃の剣が出ており、**IX. キリストの顔は、太陽が力を帯びて輝くように輝いています。それは、裁く照らしのためであって、王国をもたらします。啓1:16c** 彼の顔は、太陽が力を帯びて輝くように輝いていた。

X. キリストは最初の者また最後の者であって、彼が決してご自分の働きを途中で終わらせないことを私たちに保証します。キリストはまた、生きている者であって、彼のからだの表現としての諸召会を生かし、新鮮にし、強めます。

XI. キリストは、死とハデスのかぎを持っています:A死は集める者であり、ハデスは看守です。しかし、キリストは十字架上で死を廃棄し、彼の復活の中でハデスに打ち勝ちました。**B**私たちが訓練して自己を否み、十字架を取り、自分の魂の命を失うことによって、主に地位、機会、道を与えて、主に私たちの間で動き行動していただいている限り、死とハデスは彼の支配の下にあります。

証救われてすぐの頃、奉仕されている兄弟姉妹のように献身するのは無理とっていました。当時、車の運転が嫌で10年以上運転していませんでしたが、からだの中で供給を受けるうちに、兄弟姉妹と共に交わるために車を購入したいという願いが起こされました。運転は相変わらず嫌いですが、車の中で兄弟姉妹と一緒に交わったり訪問したりする祝福を経験することができるようになりました。仕事が忙しくて奉仕は無理とっていました。昼休みの時間にできる奉仕に少しあずかれるようになりました。光の照らしのもとで十字架をとると、天然の感覚から解放され、祝福の道が開かれます。エド兄弟は、「十字架を恐れないでください。十字架は祝福をもたらします」と言われました。イエスにある患難と王国と忍耐にあずかることは、自己からの解放と祝福を受ける道であることを少しずつ経験しています。